

# EARTH WIND

APUから地球に風を

立命館附属校APU通信

## No.25

発行：学校法人立命館 一貫教育部

2018年10月4日発行

今年度は5月1日・2日の2日間、附属校新任教諭APU（アジア太平洋大学）研修が実施され、今年度新任の先生と昨年度、一昨年度校務で研修に参加できなかった先生を含めて総勢29名が別府にあるAPUを訪問しました。APU研修は、附属校の教員が自ら「児童・生徒に『APUの魅力』を語れるようになる」ことを目標としています。12回目となる今年も、『APU通信—教員の視点から見たAPU—』をお届けします。





2018年度 立命館慶祥高校  
APU 研修通信  
【第1号】  
発行日：2018年5月9日  
発行者：西島 卓

APU

立命館アジア・太平洋大学（APU）ってどんな大学？僕たち附属校の教員・生徒も、知らないことが多いよね。今回は①カリキュラム、②生活の2点に焦点をあて、その魅力を紹介してみたいと思います。

## 【1】APUの高度な「学び」

APUは、二つの学部から構成されている。

アジア太平洋学部（APS）では、その名の通り、アジア・太平洋地域を舞台とした諸問題に

ついて学ぶことができる。専攻として、①環境・開発、②観光学、③国際関係、④文化・社会・メディアの4分野が存在する。

国際経営学部（APM）では、経営について国際的な視野から学ぶことができる。専攻として①会計・ファイナンス、②マーケティング、③経営戦略と組織、④イノベーション・経済学の4分野が存在する。2学部のなかを詳しくみると、実は多様な分野について学ぶことができることがわかるね。

### 日本でもわずかな国際認証取得校

とりわけ注目したいのが、APUが現在取得している2つの国際認証。一つめのAACSB（左ロゴ）認証は、国際的な経営学教育を行なう教育機関に与えられるもの。現在この認証をうけている大学は、APUをふくめ4校しかない。このことから、APUが日本のみならず、国際的にもトップレベルの教育を行なっていることがわかるね。



二つめのTedQual（右ロゴ）認証は、国連世界観光機関（UNWTO）が、高度な観光教育を行なう教育機関に対し与えているもので、APUは国内2校目、私立大学ではなんと国内初の認証（2018年3月）。僕が国際生にAPUの魅力についてインタビューした際にも、この国際認証の存在を魅力として挙げていた人がいました。観光学に興味がある人は、APUで世界レベルの学びができるよ。

## 【2】APUで、毎日「世界」にふれる

カリキュラムの次に、学生生活の具体的な姿が気になるよね。APUでは、86の国と地域から国際生が集っている（2017年5月時点）。それは、さまざまな宗教・出自をもつ生徒が集まっていることの証拠だし、それだけ「多様性」を学ぶことができるという大学の環境を作るものでもある。学生寮であるAPハウス（右写真）では、共同キッチンやシェアタイプの部屋など、国際生と接する機会が多く設けられて、刺激的な生活を送ることができる。



右の写真は、APU生協の食品コーナーで撮った一枚。このパッケージに貼られているシールが何か知っているかな？これはハラールマークといって、ムスリム（イスラム教徒）が食べるのを禁じられている豚肉などの食材が含まれていないことを証明するマーク。APUでは、こういった食品という生活単位からも、「違い」「多様性」を毎日感じるすることができる。APUが、本物の「多様性」を学べる刺激的な大学だということを実感したよ。



# やりたいことがとことんできる 環境がある

—立命館アジア太平洋大学—

## 「混ぜる」教育

APUの「混ぜる教育」は本当にユニークだ。国際生と国内生が半々の割合でチームになって、価値観や考え方について議論する多文化協働ワークショップ。一緒にチームとして動くと、時間の感覚、考え方の違いから衝突も生じる。それを皆で話し合っ乗り越えていく。とことん話すからこそ信頼感が生まれる。語学力もぐっと伸びる。国内生と国際生のミックスチームが異国の地で数日間かけて課題をクリアする異文化オリエンテーリングでも、文化や考え方の違うメンバーで話し合い協力し合う力を鍛えられる。他にも、将来グローバルな環境で活躍する力を育むユニークなプログラムが豊富に準備されている。

「もともとAPUに興味があったわけではないんです」という先輩もいる。気持ちが変わったのはオープンキャンパスに参加してから。他大学の「国際系」学部では、入学してからどんな力がつきそうか、どんな学生生活になるのかイメージ湧かなかった。でも、APUのキャンパスは違った。国際生と国内生が混じって談笑し、模擬授業でも国際・国内生が交わっていた。「ああ、ここで勉強したい」と思った。そして今。「以前は得意でなかった英語はもろろんぐっと伸びました。何より、学んだことが生かせる環境なので、自然と自分でやりたいことをとことん行動に移すようになりました。」

## 「混ぜる」生活

APUには、国際生と国内生と一緒に生活する学生寮「APハウス」がある。ハウスは文化の異なる学生の共同生活の場。異なる者への理解力と気遣い力が鍛えられる。一緒にハウスで生活した者には強い絆が生まれるというのも納得できる。1セメスターに1回はハウスパーティーが開かれ、ハウス全体の交流と息抜きになっている。ハウスの生活は学生が自分達で管理する。ハウスのリーダー的存在なのが、RA(Resident Assistant)と呼ばれる学生で、入寮生の生活サポートからハウスのルールの徹底、寮生の相談役まで、ハウスの生活全般を取り仕切る。100人以上を超える応募者の中から書類選考、面接を経て選ばれる人気役職だ。今年からRAを担当する先輩に話を聞いた。

RAの業務は全て日英両言語。英語力が鍛えられるのはもちろん、文化の違う学生間で起こる日々の小さな衝突を整理し解決に導く中で、どうすれば皆が気持ちよく生活できるか、どうすればルールを守ってもらえるか、リーダーシップが鍛えられる。忙しい中でRA業務をこなすうちに、タイムマネジメント能力も鍛えられる。大変だけれど、その分、皆から得られる信頼は絶大だ。将来グローバルに活躍するための力のつく何よりのトレーニングだ。「せっかくだから興味あることをとことんやりたい。その環境がAPUにはあります！」

## 「混ぜる」のは自分！

ある先輩のある1日。1限目授業、空きコマにライブラリーで課題と他の授業の準備をし、ご飯を食べて午後の授業。その後、所属する学生団体の活動に参加し、帰宅し、アルバイトをして就寝。休日は高校時代から続けているスポーツの練習に打ち込む。忙しいけれど、勉強に手を抜かない。他学部にも勉強したい講座があり、他学部にも「留学」する権利を手に入れるためには一定の成績を修めねばならない。「大変だけれど、自分のやりたいことだから頑張っています。」先輩の顔は晴れやかだ。「APUには『やりたい』をかなえられる環境があります。高校生の皆さんも自分の『やりたい』を是非探して下さい。」

国際生に、学校に、勉強に、一歩踏み出して混ざっていくのは自分自身だ。そして、その気持ちに十分応えてくれる環境がAPUにはある。

学生に占める 留学生の割合	学生の出身国・ 地域数	国内学生 就職率	海外協定大学 機関数
50.1%	86	98.5%	465

(文責:立命館守山高校 寺田智恵)

## 本物のグローバル・ キャンパス

緑豊かな大分県別府駅からバスで20分ほど。小高い山を登ると、立命館アジア太平洋大学(APU)に到着する。レンガ色の大きな門をくぐると、ここは日本かと目を疑う。広大なキャンパスに、日本人の学生に混じって様々な肌の色をした多くの学生が行き来し、様々な言語が飛び交う。ここが、世界中から学生が集い、日本の学生と「混ぜる教育」が繰り広げられるキャンパスだ。この大学のすごいところは、単に国際生が多いことではない。とことん国際生と国内生を混ぜる教育を行うこと。「混ぜる」教育とはどんなものか？それを経験した学生はどんなことを思うのか？附属高校卒の先輩たちに聞いた。





立命館守山中学・高等学校

数学科 中川義之

## 日本大学ランキング～国際性～

THE 世界大学ランキング(日本版)によるとなんと APU は 21 位!!!!(昨年度 24 位)他の私大については 10 位慶應、11 位早稲田、15 位上智、そして 28 位同志社となっており、APU なんと日本の私大で 4 位に入っています。(ちなみに立命館大学は 23 位で私大 5 位となっており、今年度ついに逆転しました!!)

一体どのような点で APU は評価されているのだろうか? 同じく国際性の日本大学ランキングを見てみると日本で 2 位となっています(前年度までは堂々の 1 位)。APU が社会から評価されているところはこの点であると思います。APU の学生の半数以上が国際学生です。留学生の多い大学は他にもたくさんありますが、国際学生と 4 年間同じキャンパスで学べる環境はありません。

実際にキャンパス内は本当に国際学生が多く、びっくりするでしょう。APU では実に 90 もの国籍やバックグラウンドを持つ学生が「混ぜられた」状態で学んでいます。言語も英語だけではなく、様々な言語が至る所で飛び交い、国際大学では英語を学ぶ場所という考えからすぐに改めることになるでしょう。ここ APU で様々な文化で育ってきた国際学生たちと同じキャンパスで 4 年間学ぶことで、本当の意味での国際的な視野や異文化・多文化などの多様性を理解できるようになるでしょう。グローバルに活躍するためにはこの大学のような環境で揉まれていくことがこれからの時代で本当に必要とされる人材ではないだろうか。

## AP ハウスの魅力

APU には AP ハウスと呼ばれる寮が大学のすぐ隣にあります。入居者の 7 割が国際学生という環境で異文化・多文化をとて身近に感じることができます。なので、毎年大人気で日本人が入寮するにはとても困難でもあります。しかし、なんと附属校生には特典がありまして、入学者は全員この AP ハウスに入寮することができるのです!! 本来、入寮するためには入学試験の点数で上位の点数を取ることが必要ですが附属校生の特権です!! APU を考えている人は AP ハウスで世界を身近に感じましょう!!

国際性ランキング

総合ランキング 分野別ランキング エリア別ランキング

教育リソース 教育充実度 教育成果 国際性

「THE世界大学ランキング(日本版)国際性ランキングを掲載。外国人学生比率・外国人教員比率に加え、今年度は日本人学生の留学比率・外国語で行われている授業の比率も含めた4種類のデータから、どれだけ国際的な教育環境になっているかを評価している。ランキング掲載」

2018年3月28日 【図で理解】THE世界大学ランキング日本版2018ダイジェスト

国際性順位	大学名・所在地	総合	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性
1	国際教養大学 秋田県 ▶大学プロフィールを見る	76.1	47.3	99.8	70.6	100.0
2	立命館アジア太平洋大学 大阪府 ▶大学プロフィールを見る	68.5	-	94.9	54.6	98.9
3	国際基督教大学 東京都 ▶大学プロフィールを見る	71.4	52.0	98.1	44.4	96.8
4	東京外国語大学 東京都 ▶大学プロフィールを見る	71.0	45.4	93.9	64.3	91.5
5	上智大学 東京都 ▶大学プロフィールを見る	73.1	46.0	97.7	69.4	90.9
6	京都外国語大学 京都府 ▶大学プロフィールを見る	51.8	-	58.0	42.4	90.1



この APU 通信は、立命館学園の立命館アジア太平洋大学広報のために作成されています。個人に関する情報を含む場合もありますので、コピーをしたり、第三者へ渡されたり、通信の趣旨に合った目的以外の利用はくれぐれもご遠慮ください。(中川)

# そうだったのか!



# APU

2018年度 APU 通信  
立命館慶祥中・高  
立命館守山中・高  
立命館大学教職大学院  
岩倉 衣梨奈 (国語科)

立命館に通う中高生のみなさん、立命館学園には立命館大学のほかに、**立命館アジア太平洋大学 (APU)** という大学があるのを知っていますか？ 大分県別府市の山の上にある通称**“天空の城”**。そこは**「誰のために学び、誰のために生きるのか」**を問われてきた附属校生こそ学ぶべき場所でした。

APU は 2000 年に開学して以来、**学生の約半数は国際生**という他にはない大学です。現在は、国際生の出身国・地域は 144 カ国・地域にもなりました。そのため、多国籍の学生がキャンパスを歩く様子から「若者の国連のようだ」と言われたりしています。

現在、「国際」とつく大学や学部はたくさんあります。皆さんは「グローバル化」「国際化」する社会で必要なのはどのような力だと思いますか？ 英語を話す力？ **「国際＝英語」**なのでしょうか？

APU は「本物の国際大学」を目指して創設されました。**「本当の国際化」とは、世界と日本が「混ざる」こと**だと考えたのです。

共に学び、共に生活することで対立し、お互いの文化を知り、お互いを尊重し、共に生きるためには何が必要かを考えていく。それが APU の教育です。

Point 1

若者の  
国連



APU は立命館学園の中の 1 つの学校ですが、あえて別のブランドとして、全く新しくゼロからつくられた大学でもあります。

APU には日本語を話すことができない国際生が入学します。また、国内学生も英語が得意とは限りません。そのため、APU の講義は**日本語と英語の二言語**で行われます。APU では、「英語を学ぶ」だけでなく、英語をツールとして**「英語で学ぶ」**ことを大切にしています。国内生は 10 種類の英語の講義で単位を取ることが卒業要件になっています。

多彩な留学プログラムだけではなく、APU ハウス(寮)で国際生と一緒に生活したり、講義を受けたり…。**英語や異文化が身近にある生活**の中で、グローバル社会で生きていくための力を身につけることができる大学です。

Point 2

ホンモノの  
国際力



APU は「本物の国際教育」を目指した立命館の思いが詰まっています。けれどももう一つ、APU を支えていたのは、別府市でした。

別府は若い働き手が街に流入しにくい、「**お年寄りの町**」でした。たくさんの学生がやってくる、それも半分は国際生。地域の方々の不安は大きかったと思います。そこで、APU は大分県や別府市と協力して、**APU と地元を「混ぜる」**工夫を行いました。

APU のキーワードは「**グローカリティ**」。漁船を使ってどんな観光ができるかを考えたり、別府の紹介動画を配信したり、国際生が地元のお店でアルバイトをしたり。APU と別府市はさまざまな形でお互いに混ざり合い、「日本の国際化の先行事例」になっています。

**「国際＝海外」とは限らないと思いませんか？** APU は**地球規模で考え、足元から行動することの大切さ**を教えてください。あなたも“天空の城”から世界を、日本を、地域を、考えてみませんか？

世界を繋ぐ  
別府



Point 4

附属校生が  
輝く学び



Point 3

APU では「混ぜる教育」を行っています。ですが、APU に行けば、**勝手に「混ぜてもらえる」というわけではありません。**

実際、せっかく APU に来たのに、同じ出身地で固まって国際生と交流せずに 4 年間を終えてしまう学生もいるそうです。**APU での学びは主体的な学び**なのです。

**そこで生きるのが、附属校での学びです。**海外研修や部活動・行事での経験や、授業でのグループワーク・プレゼン発表、そして課題研究。

例えば、アジア太平洋学部では、**専攻(分野を)・地域(どこで)・キャリア(〇〇の観点から)の 3 つの軸**から学びたいテーマを考えます。多面的・多角的な視点や横断的な学びが重要となります。

附属校で大学や社会で生きる力をつけたみなさんだからこそ、できる学びが APU にはあります。